

都市再生整備計画 評価委員会
(奥の細道むすびの地周辺地区)
議 事 録

1. 日 時：平成25年11月18日（月） 17:30～20:00

2. 開催会場：大垣市役所 1-1 会議室

3. 出席者：委員長 西村 貢（岐阜大学地域科学部教授）
委員 大野 栄治（名城大学都市情報学部教授）
委員 高崎 豊（元社団法人岐阜県技術士会幹事）

事務局：企画部 澤部長
政策調整課 平松課長、河田主幹、須田山主査
大日コンサルタント（株） 塚本、川野

4. 議 事

- (1) 事後評価手続き等にかかる審議
- ・方法書について
 - ・成果の評価について
 - ・実施過程の評価について
 - ・効果発現要因の整理について
 - ・事後評価原案の公表の妥当性について
- (2) 今後のまちづくりについて審議
- ・今後のまちづくりの方策について
 - ・フォローアップについて

○議事：

【委員長（西村教授）】

審議にかかわる（１）の事後評価手続き等にかかる審議と（２）の今後のまちづくりについて審議の２つの事項につきまして議事の進行をしていきたいと思ひます。

本日は傍聴希望者がございませぬが、本日の会議で非公開とする事案がないことから、大垣市の情報公開条例に基づき、会議は公開といたします。この委員会の会議録は、大垣市のホームページと市役所1階の市政情報コーナーにおいて公開されますので、よろしくお願ひします。

これから審議していきませぬが、逐次不明な点がありましたら、事務局より追加説明ということで対応したいと思ひます。

それでは、（１）事後評価手続きにかかる審議について、①から⑤について順次審議していききたいと思ひます。はじめに①の方法書について事務局等より報告いただき、皆様との意見交換を行いたいと思ひます。方法書についての説明をお願いします。

— 説明省略 —

【委員長】

ただいま、事務局の方から報告があった通りですが、質疑等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

【大野委員】

成果の評価について指標1と指標3について質問させていただきます。両方とも人数を把握されるということですが、まず、指標1について、これは人数だけを調べようとされているのでしょうか。

【事務局】

こちらはボランティアガイドが案内した人数を調べたものとなっております。今回の事後評価ではボランティアガイドの案内人数のみを使用しております。

【大野委員】

評価のために調べるということですが、それを調べてこの後何の役に立つかということをお考えたときに、例えばガイドされた時の会話で、客がどこから来られたかとか、だいたいの年齢階層、性別といったものも合わせて調べておけば今後の戦略に使えると思ひます。

遠くから来られたのか、近くから来られたのか、お年寄りなのか、若い人なのか、子ども連れなのかということ、観光客のニーズに合った施設を準備しておくという今後の戦略に使えると思うわけですが、客と会話されるので、個人情報に入り込まない範囲で把握されておくとよいと思ひます。ただ当面、報告書については人数を把握すればよいと思ひます。

指標3の入り込み客数は観光動態調査として、大垣市も含めて岐阜県で一括して調査されていますが、それとは別のものでしょうか。

【事務局】

ボランティアガイドの案内人数についてですが、大野先生のおっしゃられた通りだと思います。ボランティアガイドにつきましては、実際は男女等、案内人数以外の情報も把握しておりますので、今回の事後評価では観光ボランティアガイドの案内人数を指標とさせていただきますが、先生からご意見をいただきましたので、今年度や来年度につきましては人数の他、ニーズや年齢構成等についても事務局の方で把握していきたいと思っております。

【委員長】

観光ボランティアガイドの案内人数は勉強会を受講し、ガイドになられた方の登録人数ではなく、ガイドされた方の人数という認識でよいですか。

【事務局】

観光ボランティアガイドの案内人数は、ガイドが案内した観光客の人数です。ガイドになられた方の人数ではありません。

【委員長】

各審議については最後に再度確認したいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは方法書の審議に引き続き、②成果の評価について、報告いただきたいと思っております。

成果の評価について説明をお願いします。

— 説明省略 —

【委員長】

それでは、ただいまの説明について、意見交換等を行いたいと思っております。

指標1についてはいかがでしょうか。1年後に改善する見込みがないということになっていますが、どうでしょうか。

【大野委員】

平成23年度の観光ボランティアガイドの案内人数の落ち込みについては東日本大震災の影響でしょうか。

【事務局】

庁内検討会議において意見があり、震災が一番大きな影響となっており、自粛ムードとなったことに伴い観光客が減ったということと、団体客が減り、個人旅行が増えているということが要因かと考えております。その中でも、資料3に示す通り、回復傾向にあり、目標である18,000人には届かないと思われませんが、ある程度の成果を出していると思われま

【大野委員】

個人旅行が増えたということですが、以前は団体客が多かったということでしょうか。

【事務局】

そうですね。これについてはその他の数値指標として上げております「イベント集客数」を見ていただきますと70万人から100万人となっており、イベントに来られる方は増えております。ボランティアガイドが利用されているかといいますと、緩やかに増加しておりますので、イベントに団体客として来る方は少ないと考えております。ボランティアガイドの利用者数

は緩やかですが回復傾向にあり、また、平成24年に「奥の細道むすびの地記念館」も開館しており、少しずつではありますが、回復していくのではと考えております。

【高崎委員】

ボランティアガイドの案内人数について議論しておりますが、ボランティアガイド自体の人数が変化したということはありませんか。

【事務局】

勉強会の受講によって増えていると思いますが、具体的な人数はこちらでは把握しておりません。ボランティアガイドとして登録される一方で、引退される方もおられるので、急激に増えるということはないと思います。

【委員長】

ボランティアガイドの案内人数について、資料3に示してある推移（グラフ）の内、平成24年度までは実測値となっておりますが、評価値（見込み値）は平成15年から平成24年までの値を基にした予測値ということですね。

今の意見交換でも出ていましたが、目標値の18,000人がそもそも妥当かどうかというのはどうでしょうか。先ほどイベント集客数が増加したということがありましたが、「奥の細道むすびの地記念館」等で文字情報が充実してきているため、ガイドに説明をしてもらう必要がなくなってきているのではないかとということが考えられ、指標として妥当なのかということが考えられます。また、自然景観等ではないため、知識のあるガイドや説明を理解するような深い関心のある来客でなければ、利用しないのではないのでしょうか。さっと見て通る人はガイドを利用しないのではないですか。

【大野委員】

子ども連れだとあまり長い時間話を聞いていられないということもあると思います。想像ではありますが、少し年配の方で、文字ではなく、話を聞いて、ゆっくり散策するという方が利用しているのではないかと印象を受けます。そのため、イベントに来られる方とボランティアガイドを利用される方では少し性質が違わないかと思います。

目標値はボランティアガイドの案内人数が右肩上がりに増加していた時期のトレンドをとったものではないですか。

【事務局】

先生方のおっしゃる通り、案内人数が右肩上がりに増加していた時期のトレンドから目標値を設定しており、「奥の細道むすびの地記念館」が開館したことや文字情報の充実により、ボランティアガイドに聞かなくてもよくなったことも影響していると思われます。

【委員長】

一定の知識を持った方が対象となりますと、ガイドにある程度のレベルが求められると考えられます。例えば、一般的なガイドなのか、深い知識のあるガイドなのか等のレベルが求められると思います。

そうなる、そもそも案内人数は増えていく性質があるものなのかと思います。目標達成度は「×」だけれども、設定した値が高すぎたのではと考えられます。

案内人数は減ったが全体的な集客数は増えたため、結果的には効果があったという認識ですね。

【大野委員】

さらに将来的なことを考えると、携帯端末で、特定の場所に近づくと情報が表示されるようになることが考えられ、別の市ではそれをメインに案内をしようという動きも見られます。

そのため、観光ボランティアガイドの案内人数が減ったとか目標を達成できなかったことで悲観的になる必要はないと考えられます。端末の操作が難しく、字も読み難いという層の方は必ずいると思われしますので、ガイドがあるということは重要だと思います。

【委員長】

ボランティアガイドの利用の形態が変化していることを考慮しなかったことが反省点ではないかと思います。要するにその他の数値指標のイベント集客数で数値指標を補填しようという発想ですね。

【事務局】

その通りです。まちづくりの課題が「中心市街地の拠点性低下」や「来街者の減少による賑わいの低下」となっており、それを計る指標として、観光ボランティアガイドの案内人数を把握すれば、賑わいを確認できると思いましたが、先程、先生方からご意見いただいたように、文字情報の充実や携帯端末の利用、記念館の開館等により、情報が見られる状態になったことで、利用者数が減ってしまったことがあると考えられます。

その点で、観光ボランティアガイドで捉えられなかった賑わいの効果について、イベント集客数により把握しました。

【委員長】

従来とは異なる利用方法や一定の知識水準が必要となるなど、ガイドのレベルアップと利用の多様性を考慮すると、あまり右肩上がりの目標は適さないと思われれます。それでも、目標達成度は「×」ということになりますか。

【事務局】

目標値については都市再生整備計画に記載されており、目標達成度は「×」ということになります。

【委員長】

その他、指標2、指標3、その他の数値指標や定性的な効果発現要因についてはこれで良いですか。

それでは、次の実施過程の評価の審議に移りたいと思います。実施過程の評価について、説明してください。

【委員長】

市民と来街者の両方の意見があると思われ、ボランティアガイドに案内された人の意見を集積させると今後の対応方針につながると思われます。

引き続き効果発現要因の整理について審議いたしますので、説明をよろしく願いいたします。

— 説明省略 —

【委員長】

各事業の指標に対する貢献度評価はどのようにして評価していますか。

【事務局】

庁内検討会議で各事業担当課から、事業毎と指標の関連性について評価してもらい、「◎」や「○」、「△」といった貢献度で評価しております。

【大野委員】

ボランティアガイドが指標にくることに違和感があるのですが、「まちなか歴史回廊整備」の情報板整備と同じ位置づけになるのではないのでしょうか。文字で示してあることを口頭で説明するものなので、観光客に対するサービスの提供の1つで、それによって観光客が何人来たか、まちがどれだけ賑わったのかを、自転車通行者数や施設の利用者数で見ていくというものではないですか。そのため、指標2と指標3は的確な指標だと思いますが、指標1は目的ではなく、手段の1つではないかと思います。ここで数値が増えても適切かどうか、例えばバリアフリーのトイレを整備した場合、そこを利用する人を増やすことが目的ではなく、安心してよということたくさんの人に来てもらうという考え方です。要するに、指標として適切かどうかというように思います。

【委員長】

資料-3の59ページに観光ボランティアガイド案内人数が目標を達成できなかった理由は団体客が減ったことと書いてありますが、今後も多分団体客は増えないでしょう。

要因の分類が外的な要因とされていますが、経済状況により変化はするもののひょっとしたら、分類はIかもしれないと思います。設定の仕方、旅行形態の変化や深い知識を求める人が右肩上がりに増加するという想定をしていたこと自体にミスがあったかもしれないという気がします。そうなってくると、外的要因よりは内的要因と思えてきますが、想定が正しいかどうかの問題もあります。

今回はⅢでよいとして、今後は観光ボランティアガイド増加の指標を、例えばバリアフリートイレの利用等と同様な意味合いで指標とするかは再吟味の必要があると思われます。私の考えでは右肩上がりに上がっていくとは思えないです。

例えば、北海道の屈斜路の原野のように入園者数とガイド利用者数を連動させてあり、観光客が原野を踏みあらすようなことを防いだり、生き物や花等をガイドから説明してもらったりといったものと、文字情報の説明をするのとでは違うと思われます。

【事務局】

先生のご意見を基にすると、住民満足度等の方が重要ということになりますか。

【委員長】

その通りで、例えば住民満足度や利用者の満足度の方が重要と考えられます。

【事務局】

満足度等のアンケート等を実施しておりますので、先生のご意見を取り入れながら、今後
も実施していくようにしていこうと思います。

【委員長】

それでは、次の⑤の事後評価原案の公表について説明してください。

— 説明省略 —

【委員長】

公表については説明のとおりですが、住民の意見は今後どのように活用されるのですか。

【事務局】

住民の意見は来年度以降に策定予定の都市再生整備計画の中で、できるものから順次対応
していきたいと考えております。その他についても、都市再生整備計画を実施しながら、都
市再生整備計画の公表をして、ご意見をいただきながら対応していきたいと思ひます。

【委員長】

トイレや街路等、行政が関わるところを整備していますが、何のために整備したのか、
住民からの期待として、商店街の活性化や賑わいがあがっていますが、そういった結果を生
み出すプロセスとして、ハード整備等があるのではないかと思います。多分、住民の意見に
ある郷土愛や賑わい創出などもそういうことですよ。

いずれ行政も整備には関わるものの、行政が全面に出ていくということではなく、住民や
商店街の事業主等、自治会とかにバトンタッチしていく必要があると思ひます。

ちょっと余談ですが、恵那市の岩村地域では電柱の地中化等を社会資本総合整備で行った
結果、元々地域住民が3,000人から4,000人程度参加して行っていた農業まつりに15,000人位
の客が来たと聞きました。身内だけでは基本的に利益はないため、はじめはあまり参加意欲
がなかったようですが、この人数で住民の参加意欲が増したようです。1年目は行政が主体と
なっていたのですが、2年目からは住民が主体となり、ビジネスチャンスになったようです。
そういう好循環になっていけばいいですよ。公園整備をやって、イベントをしても商店街
の売上げが伸びないのではなくて、相乗効果的に上がって、後は住民に渡して、住民自ら
参加の手が挙がるというのがあればいいと思ひます。そういう点で住民の意見が弱いと思ひ
ます。こういうことをやってもらえて良かったけれども、さらにこういうこともやってもら
えるとよいという意見が住民から上がっておらず、この点が弱いと思ひます。

【大野委員】

何人の方から意見が出てきたのですか。

【事務局】

41人から意見をいただいております。事後評価原案公表に対する満足度は「満足」「やや満足」が14票、普通が19票であり、「やや不満」や「不満」の回答は2票しかありませんでした。そのため、事後評価に関しては普通よりも良い評価を得たと考えております。

【委員長】

よろしいですか。ここまでが（1）事後評価手続き等にかかる審議で、これ以降が（2）今後のまちづくりについての審議となります。審議事項としては①今後のまちづくり方策の作成について、②フォローアップについてとなっております。それでは、今後のまちづくり方策の作成について、説明願います。

— 説明省略 —

【委員長】

観光ボランティアガイドについてですが、傾向としては蛇行しながら右肩上がりになっていますが、右肩上がりになる妥当性があるのかということは、先程述べた通りです。頑張っても18,000人には満たないと思われます。むしろ先ほど出てきた、満足度など質の向上の方が課題として残っているのではないですか。

【大野委員】

もしかすると案内される人よりも案内する人として地域の方が参加されることで、地元に対する愛着や誇りを持ったり、住民参加の1つとして、ボランティアに参加するという位置づけの効果もあると思います。人によっては1級レベル、2級レベル、3級レベルの案内ができるといったことがあると思いますが、どのレベルでもいいので皆さんで参加しようという取り組みを行うとよいでしょう。また、観光客が要望する案内、1級レベル、2級レベル等のニーズに応じることができればよいと思います。

【事務局】

案内人数が低下しているため、残された未解決の課題として記載しておりますが、先生方のおっしゃるとおり、増加を見込むのは難しいと考えられ、満足度等を高められるよう、その方法を考えていきたいと思ひます。

【委員長】

住民自身の大垣愛等の育成と連動し、それに伴うボランティアガイドや大垣についての博士育成等としてやっていかないと、自ら担っていかう、広めようという方向に住民の意識が引き出せないような気がします。

住民からの意見で「活性化・賑わい」というものがありました。先日、樽見鉄道を利用しましたが、紅葉と織部の里周辺の富有柿の販売などにより樽見鉄道は満席状態でした。

大垣は交通の要衝であり、広域の結節点のような賑わいも視野に入ってきている感じがします。駐車場の整備が必要との意見もあるが、駐車場が不足するのは週末、祝日ではないで

すか。

【事務局】

そうですね。住民の意見によると駐車場が不足するのは週末やイベントの日等です。

【委員長】

そうなると、市役所の駐車場を開放してはどうですか。駐車場を造るといのは建物を撤去させるなど空間的に空き地ができるようなものなので、中心市街地の中に置くと、歯抜け状況の店舗の並びになりますし、立体駐車場にするのは面白みに欠けていて、のれんが下がる店が並ぶようなまちづくりができないと思います。駐車場が足りないというのは分かりませんが、足りないのであれば既存のものを利用すれば良いと思います。

【事務局】

先生がおっしゃったように、大垣には青年団体が多数あり、その方達がイベントを実施する際にはイベント関係者には市の駐車場を貸したりしています。ただし、来訪者の方にも貸すとなるとそこまでは対応できないのではないかと思います。また、大垣市では「ハツラツ市」というイベントを毎月開催しており、そこで賑わいを創出しています。これは商店街の方達が自主的に実施している事業として、集客数が増える中で皆様から回答をいただいております、自転車駐車場については満杯になっており、駅前の辺りに止める等しているようですが、不足が目立っています。

【大野委員】

今、地元の方々が工夫されていると聞きましたが、それが今後のまちづくりに入っておらず、全て行政が頑張りますという印象なのですが、それだけではなくて、例えば回遊路の歩行者数増加で、景観改善等の「等」の部分で地元の店主の方々とコラボして、食べ物屋や土産物屋を回遊路に設置して、官民一体となってまちづくりに励むといったことがあればよいと思いました。

【委員長】

例えば洋服屋なら店の前に洋服を出したり、食事をしながら歩けるようにするなど、もう少し楽しい回遊ができるよう創意工夫すればよいと思います。それは行政が仕掛けるよりも店主がした方がよいと思います。

【高崎委員】

11月3日にイベントに参加させてもらって、いろいろなイベントをやっておられたのを見ましたが、観光は人を呼び込む必要があります。住民の方の意見で「交流を深めるように」と意見もあります。イベントで工業高校の生徒が参加していましたが、そういう若い人にもイベントへの呼びかけのようなこともされているのですか。

【事務局】

市商連主催のハツラツ市では、保育園や園児の方達が出演することで、親御さんも来られるというような事業を展開していると聞いています。例えば、大垣工業の小さなSLの活用な

ど産学官連携といったかたちで地域の方々に協力していただき、周辺の大学などともコラボレーションをした取り組みを実施していると聞いています。

【高崎委員】

少し話が戻りますが、そういった方々にボランティアガイドをしてもらえれば、もっと活性化すると思うのですが、やはり一般の方がボランティアガイドの対象となっているのでしょうか。

【事務局】

学生としては「たらい舟川下り」の船頭の一部をしています。少しずつこのまま交流を深められればよいと思います。なかなか、すぐに2、3年で効果が得られるものではないので、方策を続けていけたらよいかと思っています。

【高崎委員】

いろいろと申しましたが、やはり先生のおっしゃられたとおり、ボランティアガイドの案内人数だけではなく、質の向上が今後のまちづくりには必要ということですね。

【委員長】

それでは、次にフォローアップについての説明をお願いします。

— 説明省略 —

【委員長】

その他の数値指標2にボランティアガイドの満足度やガイドの登録者数、受講者数、例えば1回から3回受講した人が、累積3,000人とか10回受講した人が5,000人とかといった育成に関するものを持ってこない、と、数値が開いてしまう結果になってしまわないかという感じがします。

以上のようなことで概要をまとめていきます。

【委員長】

方法書については適正に実施されており、成果の評価については適正に実施されているものの、指標1の観光ボランティアガイドの案内人数について意見を入れておきたいと思います。指標1は想定していたよりも観光ガイドに期待する知識が多様化していることと、それよりもリピーターの満足度等の指標の方を重視する、量が右肩上がりであることが良いということではないということを記載してはどうでしょうか。

指標の2、3については特に意見はなかったということによいですね。

実施過程の評価、効果発現要因の整理についても、適正に実施されているということによいと思います。

公表の妥当性についても適正に実施されたかと思っています。

その他は特になしでよいでしょう。

今後のまちづくり方策の作成については住民の意見を聞くということと、外部評価のため来訪者の意見を聞くということ、2つ目は商店街の事業者や住民の自発性・主体性を引き出す

ような仕組みが必要なのではないかということが意見として出ました。

フォローアップについては、適正であると言えるでしょう。

その他ということですが、まちづくりの2番目とよく似ていますが、住民自身が知識を持って交流するということもあると思います。住民の意見の中に、「住民の交流」という意見もありましたよね。

【大野委員】

住民自身が案内できるような知識を持つことで、地元に誇りを持つとか、それでよりよいまちにしていこうという熱意を醸成していき、それが住民参加の素になるということです。

【委員長】

観光による交流ではなく、住民同士の交流ということですね。住民が楽しむことができればよいということですね。住民が集って楽しめるところが、その他の人も楽しめるというような仕掛けがあればよいということですね。その他に、例えばイベント参加者数が増えているということで、たらい舟とか飲食等で大垣がテレビ放映されていることが増えているように思います。そういうことで、水の都等の認知度は上がっていると思われるのですが、一過性の来訪を持続性に結びつける必要があるでしょう。例えば年に3回という頻度を2ヶ月、3ヶ月に1回にしていくといったことがあるかと思います。

【高崎委員】

最後の話ですが、もっと賑わいのある、持続性のある発展につながる方策を考えてくださいということでしょうか。

【委員長】

テレビの場合はスポット情報として、たらい舟とか建物について報道されていますが、イベントでは両方行けるので、例えば大垣での楽しみ方を行動で、例えば、たらい舟に乗って、食事をして、また別のイベントに行くといった楽しみ方をPRすれば、回遊性が高まるという効果があると思います。その前提条件としての点としての情報はかなり認知されてきていると思います。京都等の例ですと「春の京都」、「夏の京都」というように季節で売っているのが評価できます。「大垣の春」「大垣の夏」というような売り方はあまりなく、お祭りがありますとかというような単体になってしまっています。ですので、季節性のある売り方をするとリピーターが獲得できるかもしれないと思います。

以上で、事後評価委員会で求められていたことは全て終了したと思います。